

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
配当された漢字を正しく書いたり読んだりする力を身に付けられるようにする 全ての教科の基礎となる語彙力を伸ばせるようにする。	相手の話を聞いて感想をもったり自分の考えをまとめられたりできるようにする。 相手に伝わるように話をするができるようにする。 話し合いをする際に、司会などの役割を果たしたり考えを広げたりすることができるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	ア 漢字の読み書きについて個人差が大きく、継続的に取り組んでいる児童と、苦手意識から停滞している児童の個人が大きい。 イ 話し合い活動において、自分の考えを自発的に発言できる児童は少数にとどまっている。	ア スモールステップでの学習を継続的に行う。国語科だけでなく、他教科等のノート記述でも、既習の漢字や語彙を意識して使うように、日常的な指導を行っていく。 イ ペアワークや小グループでの対話場면을意図的・計画的に設定し、安心して発言ができる環境を整えていくようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	ア 漢字の小テストなどには一生懸命に取り組むが、普段のノート等で汎用的に既習の漢字を書く力が弱い。 イ 相手の言っていることを理解したうえで自分の考えを伝えたりする力が弱い。	ア 習った漢字は書くことを日常的に指導する。小テストを複数回行ったり復習の機会を作ったりする。 イ 学級会やグループ学習を意図的に増やし、話し合った内容だけでなく、話し合いの過程も価値づけるようにする。	ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	ア 学期中のテストでは、漢字や言語の正答率ができる子とできない児童で差がある。また、習った漢字を使うことが難しい児童も多い。 イ 話し合いをすることはできるが、話題を広げたり深めたりすることには課題がある。	ア 定期的に漢字小テストを実施し、50問テストでその成果を確認させる。また、丘の上スタディタイムなどを活用して学習に取り組む時間を確保する。 イ 学級会を行う。また、他教科でも話し合い活動を積極的に取り入れて、多くの話し合いの経験を積ませる。	ア 学力調査【知識・技能】 イ 学力調査【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
4年：自分に合った内容や、必要な学習を選んで取り組める力を高めていく。 5年：ミライシード、検索機能の活用。分からないことを分からないままにしない。 6年：学んだことを PowerPoint や Word を使ってなどでまとめている。	4年：小さなステップを意識して、やってみたいという気持ちを大切にする。 5年：児童がやってみたい、考えてみたいという学習活動を他教科とも関連付けながら設定をする。振り返りを活用し、自己の変容に目を向けられるようにする。

	6年：単元の学習計画や1時間の予定を児童と考えて見通しをもつ時間と、ふりかえりをする時間を必ず確保する。話し合い活動をさまざまな場面で取り入れ、自分たちで課題を解決していけるようにする。
--	---

令和8年度 武蔵村山市立第三小学校 授業改善推進プラン 教科名 **算数・数学**

算数科・数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
☐ ア 知識及び技能	☐ イ 思考力、判断力、表現力等
式や計算の意味等を確実に理解できるようにする。	言葉や式、図、表、グラフを用いて根拠を基に説明・記述ができるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第4学年	☐ ア 基礎的な計算力が身についていない児童が多い。 ☐ イ 文章問題の意味を理解できず、立式できない児童や見当外れの答えでも気づかない児童が多い。	☐ ア ドリルプラネット、ミライシードの活用によって自分の課題を把握し、繰り返し取り組む。 ☐ イ 問題文の分析時間を確保し、課題解決につながる言葉数字の確認をしたうえで自力解決を図る。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第5学年	☐ ア 数量、図形の知識技能の定着に個人差が大きい。 ☐ イ 式や言葉、図を用いて説明できる児童が少ない。	☐ ア 繰り返し取り組めるミライシード等のドリルの活用をすることで、自分の課題を把握し、定着を図る。 ☐ イ 子ども同士の気づきや発見の機会をもつために、ペア学習やグループ学習を取り入れることで高め合える場を設ける	☐ ア 市学力調査【知識・技能】 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見
第6学年	☐ ア 問題文の読み取りに課題があり、桁数の多い計算に苦手意識をもっている児童が多い。 ☐ イ 図や式、数直線等を用いた説明ができる児童が少ない。	☐ ア 授業冒頭に百ます計算等の計算に取り組む時間を設け、基礎学力の向上を図る。 ☐ イ 図の意味やかき方の確認をする時間を設け、根拠を基に問題を解決できるよう繰り返し取り組む。	☐ ア 市学力調査【知識・技能】 ☐ イ 市学力調査【思考・判断・表現】 所見

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
---	---

4年：タブレット端末などの ICT 機器の活用をすることで、自他の考えの視覚化や共有化を図る。また、ミライシードなどに繰り返し取り組む。 5年：視覚化、共有化のためにタブレット端末の活用をすることで問題解決の方法の理解を深める。 6年：ワークシートや思考ツールの活用で、考えをまとめたり比較したりすることでよりよい方法を見出すことができる。	4年：これまでの学習を振り返らせ、学習の見通しをもたせる。日常生活で関連のあるものや興味関心を高めるものを問題に盛り込んだり提示したりする。 5年：友達の考えのずれや予想とのずれ等を引き出す導入をする。 6年：学習の振り返りをもとに、次時の課題を設定したり、単元の見通しをもたせたりする。
---	---